

巻 頭 言

歴史分科会長 逗子高校 澤野 理

2011年5月25日に前任の矢野慎一先生より歴史分科会長を引き継いでから、8年の月日が流れました。本年5月22日を持ちまして分科会長を退任いたします。まずは、これまで非力な私を支えてくださった先生方に心よりお礼申し上げます。歴史分科会は、この間、全国歴史教育研究協議会・大阪大学歴史教育研究会・高大連携歴史教育研究会などに集う全国の高等学校・大学の先生方との交流も深まり、一部ではありますが、神奈川の枠を超える活動を展開して全国に情報を発信してきました。夏休みを利用して実施している「高大連携講座」や「日本史サマーセミナー」は、年ごとに全国の先生方よりの注目を集めるようになっていきます。もちろん今夏も実施する予定ですので、皆様の積極的な参加をお待ちしております。また、これも一部ではありますが、県内では若手教師の活躍が本格化しつつあります。3月に行われた歴史分科会研究発表会では、世界史・日本史とも着任1校目の先生による意欲的な研究成果が報告されました。こうした新しい視点に立った研究活動への応援も歴史分科会の重要な役割であると考えております。中堅・ベテランの先生方におかれましては、新しい研究活動に対する批判的かつ建設的なご指導ご助言をいただければ幸いです。

さて、前段で「一部」という言葉を用いたのは、歴史分科会全体を概観した場合、各委員会への新規加入者数が伸び悩み、活動を縮小せざるを得ない委員会もあるという現状が一方であるからです。実際、海外史跡踏査委員会は2014年以降、活動停止の状態が続いています。ここ数年、一定数の新採用者があるのですが、歴史分科会に限らず、教科研究会の活動へ参加する新人の数は伸び悩んでいるようです。これは、神奈川より後に全歴研の大会を開催した(神奈川大会は2013年)大阪や埼玉で今後5年以内に全歴研の大会を開催するという状況と比べると、大いに危機感を持つべき問題であるといえるでしょう。もちろん、参加する意欲はあるものの、校務多忙の中でなかなか思うように研修の時間を取れないという現状があることも事実です。しかし、このような状況が今後も続くのであれば、神奈川の歴史教育に携わる教師の力が全体として劣化していくことになりかねません。教師の力が伸びなければ、現場経験を経て登用されている指導主事など行政系の人材も減少していく、つまり、個々の学校を超えた問題となるのです。3年後に新学習指導要領の施行をひかえた現在、こうした危機意識を現場の管理職や教育委員会の所管部署とも共有しつつ、これからの歴史分科会の活動を充実させること、これがわれわれの「ミッション」なのではないでしょうか。

そのための第一歩は、多くの先生方が積極的に歴史分科会の活動に参加していただくことです。ここ数年書いていることですが、われわれ社会科部会・歴史分科会の各種活動は、現状では数少ない「社会科教師」「歴史教師」としての力量を高めるための場です。時節柄、校務多忙ということは十分承知しておりますが、ひとりでも多くの先生方がわれわれの活動にご参加(まずは、研究発表会に来てください)いただくことをお願い申し上げます。巻頭言を結ばせていただきます。